



戦後、財閥解体の持株整理委員長を務める）や西原正巳君（早く亡くなる）などにも教えていたのです。私が中学四年になってから病氣して寝ていたころです。野田君や西原君が見舞いに来ると、よくカルタを取ったものです。私は寝ているので寝ながら物差しで取るのです。野田君と西原君二人を相手にして物差しで取っていたのですが、そのうち野田君が長崎市民カルタ会に参加して三番になったのです。私が行ったら優勝したかどうか分かりませんが、とにかくそんな調子でした。

カルタが上手になろうと思ったら基礎練習することだということです。大勢集まればたばた取り合うのは面白いかも知れないのですが、上達するのは遅いのです。そうではなく、これは一口言ったら取れる、二口言ったら取れる、三口言ったら取れるというように、何と言ったら取れるという勉強をすることです。百枚の取り札を左手に持ち、それを一枚一枚くりながら、これは何といたら取れる、何と言ったら取れるというようにして百枚の取り札を一分間でわかるように勉強するのです。そうすると基礎がわかっているため、並べてある札がすぐ取れるのです。このやり方は速記の練習の場合でも同じで、速記が早く上手になろうと思ったら、基本文字のカードで練習し、基本文字がさっさとわかるようにすることです。